

2学期始業式 令和5年8月22日

今年は猛暑が続き大変な毎日でしたが、生徒の皆さんはそれぞれの活動にしっかりと取り組んでくれていたと思います。本日から2学期となります。秋の気配とはまだありませんが、学校祭や体育祭の行事を皮切りに皆さんにとって重要な2学期、暑さをうまくしのいで乗り切って行きましょう。

近江商人が培ってきた「三方よし」という理念が注目されています。近江商人とは現在の滋賀県、近江の国に本店を置き、江戸時代あたりから他国へ行商をして歩いた商人のことをいいます。近江商人の流れをくむのは、高島屋、伊藤忠商事など皆さんがご存じの有名な大企業が名を連ねています。

三方よしというのは、商売において売り手と買い手の両者が満足するのはもちろんのこと、社会に貢献できてこそよい商売と言えるという考え方です。

売り手よし、買い手よし、世間よしで三方よしとすることです。この言葉ができたのは比較的最近のことらしいのですが、近江商人の中村治兵衛宗岸氏が1756年、後継者に書き残した家訓に三方よしの精神が示されていると言われています。

「たとえ他国へ商いに出かけても、この商品がこの国のすべての人、皆さんが気持ちよく着用されるようにと考え、自分のこととは思わず、すべての人様がよいようにと思い、高い利益を得ることは望まず、ともかくすべてはお天道さまのお恵み次第と考え、ただ商いに出かける先の人のことを大切に思わなければならない。そうすれば、心も安心し体も健康でいられる。仏様や神様のことを平素からしっかりと信じて、商いの相手先の国に入るときには、右に述べた通りに志を起こすことが何よりも大切なことである。」

(引用 中野正堂「近江商人の魂を育てた寺子屋」より)

自らの利益のみを追求することをよしとしない、顧客満足や企業の社会的責任を追求しないと商売は成り立たないという、現代の企業に求められる経営理念ではないでしょうか。

自社の利益追求のために不正をするなど、最近の報道を見るにつけ、この精神の重要性が認識できると思います。

私たち高等学校においても、自分さえよければそれでいいという考えを持たず、常に周囲を気遣い、地域からの御支援に感謝をし、ひたむきに学業や探究活動、部活動に取り組むことが、社会への貢献、ご恩返しにつながるということを肝に銘じて学校生活を送っていきましょう。

2学期が皆さんにとって飛躍の学期となりますことをお祈りし、式辞といたします。